



# 環境活動レポート

対象期間：2018年4月～2019年3月

2019年(令和元年)6月14日

株式会社アキュレイト (Accurate Inc.)

埼玉県越谷市下間久里92-1

# 1. 環境方針

## 株式会社アキュレイト 環境方針

### ◇環境理念

株式会社アキュレイトは全事業所・全活動(設計・見積もり・製作・梱包・出荷・営業活動)を対象としてエコアクションに取り組み環境経営システムを構築し、継続的に運用、継続していくことにより持続的に発展できる経済社会の実現に寄与する。

### ◇環境方針・活動指針

1. 事業活動を行うにあたって、地域社会や自然生態系に配慮し、環境保全に努めます。
2. 環境関連法規制を遵守するとともに、遵守状況を定期的に確認、評価します。
3. 環境マネジメントシステムを構築し、削減目標を定め継続的な改善活動を行います。  
また、次の事項を環境管理重点テーマとして取り組みます。
  - ・電力、化石燃料使用量の削減活動
  - ・廃棄物の削減、リサイクル
  - ・省資源(節水含む)の推進
  - ・製品に省エネ、省資源に対応した材料を使用する
4. 本方針は全従業員に周知させるとともに、エコアクション21への取り組みの教育・訓練を実施します。
5. グリーン調達活動や廃棄金属製品の削減を推進し、地球環境保全に努めます。
6. 製品・工具設計において有害化学物質の使用量が少ない商品開発の推進を行います。
7. 仕入れ、購買活動において製品材料に有害化学物質を使用しないグリーン調達活動の推進を行います。
8. 新規導入化学物質の事前評価と既存化学物質管理を実施し、削減します。
9. 販売活動において包装の簡略化を行うとともに便利化を図ります。
10. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量、リサイクル量、化学物質含有量について記録・保管します。  
化学物質については使用物質および含有量の調査、管理を行います。
11. エコアクション21に関する内部コミュニケーションとして、社内文書・記録コミュニケーションポータルに掲示あるいはテレビ会議を通して伝達、意見の交流を行います。
12. 外部コミュニケーション手段として本環境方針をホームページで公開します。

2014年5月16日 改定

株式会社アキュレイト

代表取締役 土屋 一延

## 2. 事業活動の概要

### 1) 本社

〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里92-1  
代表取締役社長 土屋 一延

### 2) 事業所

ロジスティクスセンター（ロジスティクスセンター） 旧：東日本物流センター  
〒343-0045 埼玉県越谷市下間久里92-1

TEL：048-973-1501 FAX：048-973-1502

東京カスタマーセンター（東京CC）

〒101-0021 東京都千代田区外神田4-7-5

TEL：03-3526-4031 FAX：03-3526-0257

名古屋カスタマーセンター（名古屋CC）

〒453-0814 名古屋市中村区熊野町1-9-1

TEL：052-486-1190 FAX：052-486-1191

京都カスタマーセンター（京都CC）

〒612-8419 京都市伏見区竹田北三ツ杭町20

TEL：075-646-4520 FAX：075-642-1214

\* 以後カスタマーセンターをCCと表記する。

\* 認証範囲は全社です。

### 3) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者

ロジスティクスセンター・品質保証 西前 潤

連絡先 TEL：048-973-1511 FAX：048-973-1512 e-mail：HINSHO@accurate.jp

### 4) 事業内容

規格ばね及び機械部品（規格品）のファブレス製造・販売、各種精密スプリングの設計、試作品および量産品のファブレス製造・販売、センサーの販売

### 5) 事業規模（年度：4月～3月）

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
従業員数 (名)	37	37	37	34	37	37
延床面積 (m <sup>2</sup> )	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86	1,430.86

従業員数（社長・役員・派遣社員含む）：各年度4月1日現在。

延床面積：全CCの合計。各年度4月1日現在。 <2006年2月>横浜CC→東京CCへ移転、

<2009年5月>福岡CC→京都CCへ統合、<2009年8月>本部→東日本物流センターへ統合、

<2013年10月>本部・ロジスティクスセンター移転。

### 3. 環境目標とその実績

#### 1) 長期目標

2013年度中に本部・ロジスティクスセンターが転居し、これに伴い延床面積が増加し、機器の事務・通信等の増設をした為、温室効果ガス排出量(kg-CO<sub>2</sub>)及び電力使用量(kWh)の2014年度以降の目標を変更しました。

電力使用量のみ2015年度初めに再度目標を変更しました。

2017年度、2018年度、2019年度にも目標を変更しました。

#### 2) 2019年度目標

(a) 温室効果ガス排出量関連 前年度実績-1%

(b) リサイクルの推進 前年度実績+3%

廃棄物等総排出量は、前年度実績-3%とする

(c) 省資源の推進 水道使用量前年度実績-3%

	2013年度実績	2014年度目標	2015年度目標	2016年度目標	2017年度目標	2018年度目標	2019年度目標
温室効果ガス排出量(Kg-CO <sub>2</sub> )	42,262	34,808	33,764 ① -3%	32,751 ① -3%	34,637 ② -1%	48,386 ② -1%	45,568 ② -1%
電力使用量(kWh)	69,709	73,303	72,570 ① -1%	71,844 ① -1%	77,416 ② -1%	80,465 ② -1%	80,347 ② -1%
ガソリン給油量(リットル)	2,844.74	2,759.40 ② -3%	2,676.62 ① -3%	2,596.32 ① -3%	1,868.21 ② -1%	2,533.32 ② ±0%	1,700.49 ② -1%
廃棄物等総排出量(kg)	2,427.25	2,354.43 ② -3%	2,283.80 ① -3%	2,215.29 ① -3%	1,809.29 ② -3%	1,970.40 ② ±0%	2,343.66 ② -3%
リサイクル量(kg)	3,460.50	3,495.10 ② +1%	3,530.05 ① +1%	3,565.35 ① +1%	3,002.98 ② +1%	3,666.80 ② +3%	3,980.80 ② +3%
水道使用量(m <sup>3</sup> )	428.00	406.43 ② -3%	394.24 ① -3%	382.41 ① -3%	386.50 ② -3%	362.30 ② -1%	426.80 ② -3%
化学物質管理	当社での取り扱い無し、ファブレス製造先での使用禁止・制限を書面にて確認						

※ ①=前年度目標比 ②=前年度実績比

※ 温室効果ガス排出量(Kg-CO<sub>2</sub>) : 2016.12.27.公表 東京電力0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh(ロジスティクスセンター、東京CC)、中部電力0.486kg-CO<sub>2</sub>/kWh(名古屋CC)、関西電力0.509kg-CO<sub>2</sub>/kWh(京都CC) にて請求

- ・ 2014年度～2017年度目標 : 2013年度実績を基準とし、1年ごとに削減(リサイクル量のみ増加)。温室効果ガス排出量(Kg-CO<sub>2</sub>)の係数の変更に伴い、実績と目標の数値がずれています。
- ・ 2018年度目標 : 2017年度実績を基準とし、削減の方向(リサイクル量のみ増加)。

## 4. 主要な環境活動計画の内容および次年度の計画

### 1) 温室効果ガス排出量の削減

#### (a) 電力使用量の削減

- ・ 昼休みの消灯及び定時以降の消灯（不在部署の消灯）
- ・ 一部の蛍光灯の取り外し
- ・ 蛍光灯に代わりLEDを設置（2013年10月～ 本部・ロジスティクスセンター）
- ・ パソコンの省電力設定
- ・ 「クールビズ」「ウォームビズ」の推奨  
冷暖房の設定温度は夏季28℃、冬季20℃を目標とする。

#### (b) ガソリン給油量の削減

- ・ 使用状況の把握（走行距離）  
日報（使用前と使用後の距離）
- ・ 営業時の公共交通機関使用の推奨
- ・ アイドリングストップ、省エネ運転の推進
- ・ 低排出ガス車の優先使用

#### (c) ガス等の使用量の削減

- ・ 使用量及び使用用途の把握

### 2) リサイクルの推進

#### (a) 用紙などのリサイクル

- ・ リサイクル可能なものとその他のものの分別

### 3) 省資源（節水を含む）の推進

#### (a) 水資源使用量の削減

### 4) 有害化学物質の管理

#### (a) グリーン調達への推進

- ・ RoHS10物質及びchemSHERPA、AIS、JGPSSI、REACHにおける化学物質の含有量の確認
- ・ SDS（安全データシート）、ミルシート（材料証明書）の取り寄せ
- ・ 製品含有規制有害化学物質に関わる取組方針の見直し（半年に1度）
- ・ 総合カタログへの「RoHS適合品」の標記（2008年度版より開始）
- ・ 通い箱の使用
- ・ 古紙混入率の高いコピー紙の使用

#### (b) 有害化学物質の調査

- ・ 当社では有害化学物質の取り扱いはないが、ファブレス製造先での使用禁止・制限を書面にて確認している
- ・ 顧客からの有害化学物質調査依頼への調査・回答

## 5. 環境活動の取組結果の評価

### 1) 目標に対する結果

	2018年度実績	2018年度目標	目標に対する結果	前年比	2017年度実績
温室効果ガス排出量①	46,028 Kg-CO <sub>2</sub>	47,902 Kg-CO <sub>2</sub>	- 3.9%	-4.9%	48,386 Kg-CO <sub>2</sub>
このうち					
電力使用量②	81,159 kWh	80,465 kWh	+0.9%	- 0.1%	81,278 kWh
ガス使用量	45 m <sup>3</sup>		③	-63.7%	124 m <sup>3</sup>
灯油購入量	522 リットル			-14.0%	607.1 リットル
ガソリン給油量	1,717.67 リットル	2,533.32 リットル		-32.2%	-32.2%
廃棄物等総排出量	2,416.14 kg	1,970.40 kg	+22.6%	+22.6%	1,970.40 kg
リサイクル量	3,864.85 kg	3,666.80 kg	+ 5.4%	+ 8.6%	3,560.35 kg
水道使用(排水)量	440 m <sup>3</sup>	362.3 m <sup>3</sup>	+25.9%	+21.0%	373.5 m <sup>3</sup>

温室効果ガス排出量①及び電力使用量②には太陽光発電分を除く(発電分を差し引いていない)。

③は前年度使用量との比較

### 2) 温室効果ガス排出量の削減

目標比-3.9%、前年比-4.9%

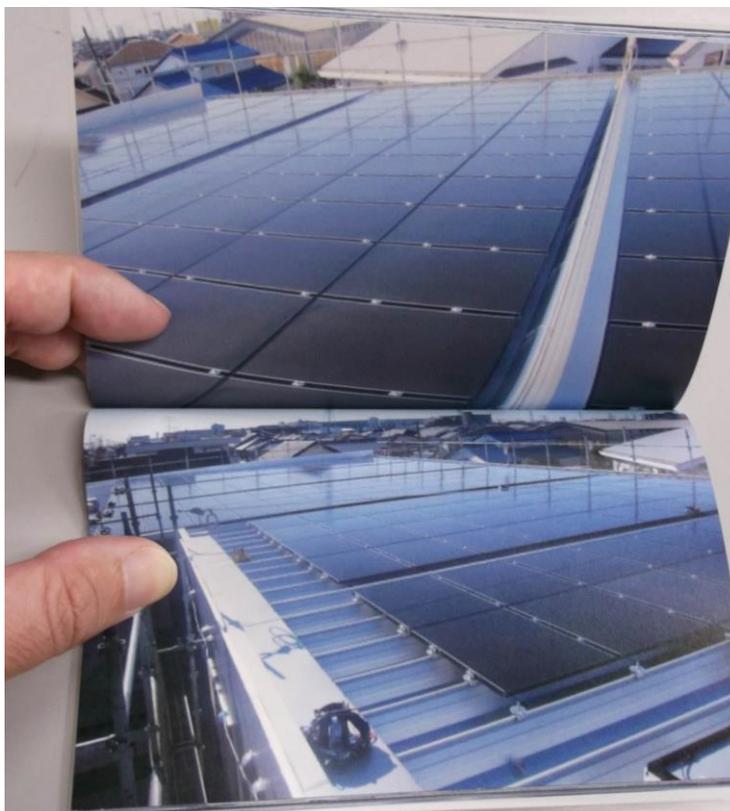


※ 温室効果ガス排出量(Kg-CO<sub>2</sub>) : 2016.12.27.公表 東京電力0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh(ロジスティクスセンター、東京CC)、中部電力0.486kg-CO<sub>2</sub>/kWh(名古屋CC)、関西電力0.509kg-CO<sub>2</sub>/kWh(京都CC) にて作成

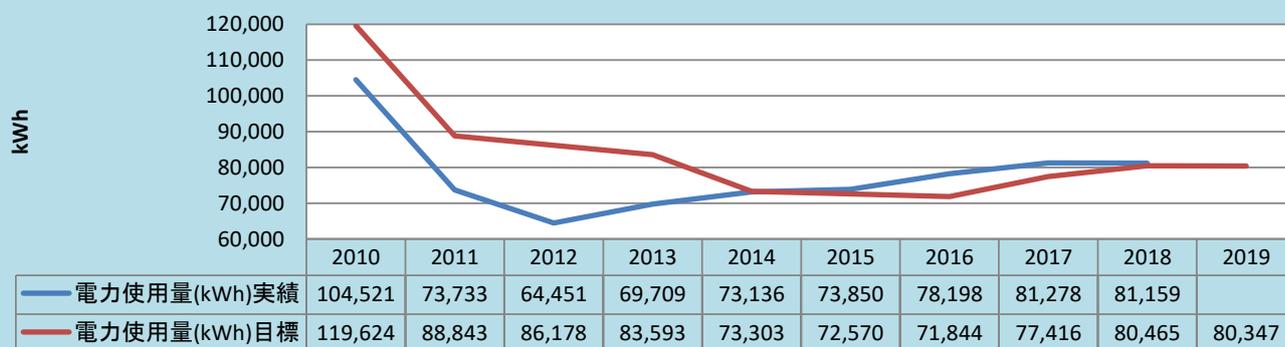
※ 2013年度中に本部・ロジスティクスセンターにて太陽光発電を開始しましたが、上のグラフはこれを計算に入れておりません。

(b) 電力使用量の削減：目標比+0.9%、前年比-0.1%

- 東日本大震災による教訓として、コンピューターのサーバーを自社内に設置していたが、大手データセンターに移管し、リスクを回避した。(2012年7月～)  
その分自社の電力消費量は削減となった。
- 2013年10月の本部・ロジスティクスセンターの移転と同時に、建物の屋上に太陽光パネルを設置して発電を行い、電力会社に売電している。この発電は上記の電力使用量計算には算入していない。売電量は同所の電力使用量(2014年度～2018年度は約36,000kWh～40,000kWh)より多い。
- 2013年度10月に本部・ロジスティクスセンターは転居に伴い、照明を蛍光灯からLEDに変更したが、延床面積が増え、機器増設もあった為、電力使用量が増加した。
- 2016年度、2017年度は過去最大の売上を記録したが、それに伴う業務量の増大などにより、使用量が増大してしまった。
- 2012年度を底にして、使用量が増加してきた。  
しかし、売上原単位では削減出来ている。(数値は割愛)



## 電力使用量



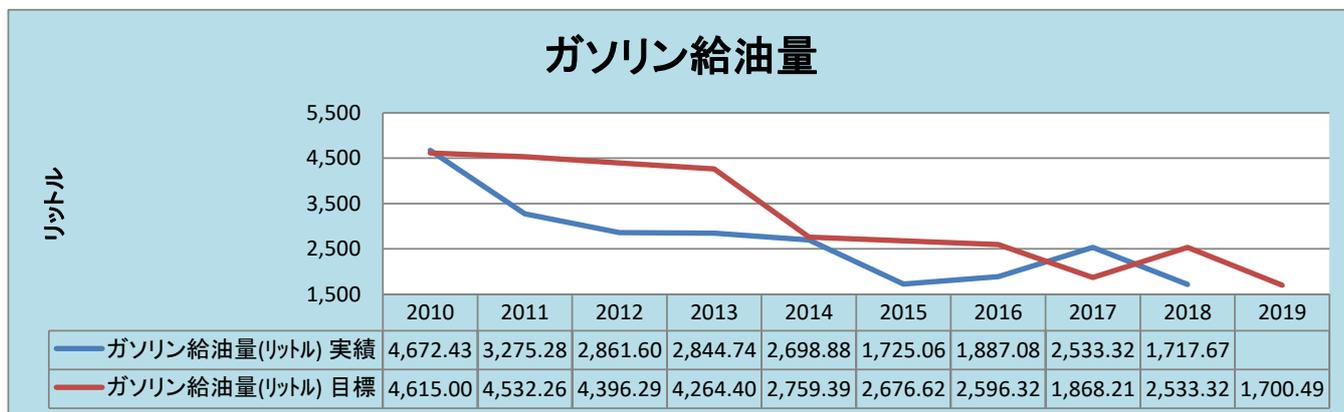
(c) 太陽光発電量

- ・ 2013年10月、本部・ロジスティクスセンターの移転に伴い開始。
- ・ 2016年7月～10月、パワーコンディショナーの異常のため発電量が低下していた。



(d) ガソリン給油量の削減：目標比-32.2%、前年比-32.2%

- ・ 営業車全車両、低排出ガス車に入れ替えを実施済み。
- ・ 遠隔地に行く場合、鉄道及びレンタカーの活用も行っている。



(e) ガス使用量

- ・ 2013年11月以降は京都CCのみでの使用。



(f) 灯油購入量

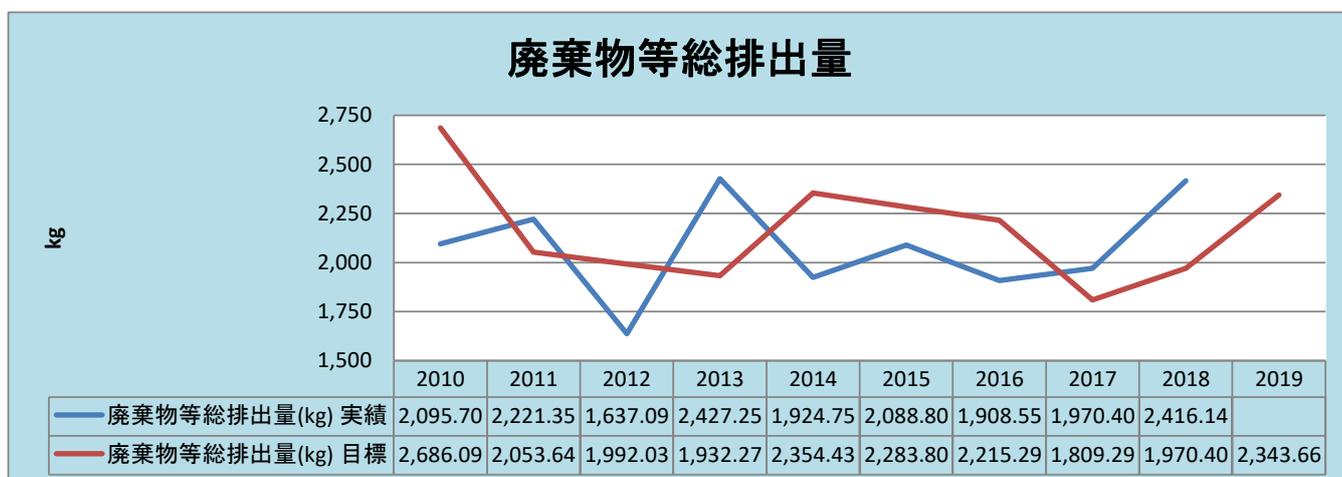
- ・ ファンヒーターで使用するため、主に冬場に購入している。



3) リサイクルの推進により廃棄物等総排出量の削減

(a) 廃棄物の削減：目標比+22.6%、前年比+22.6%

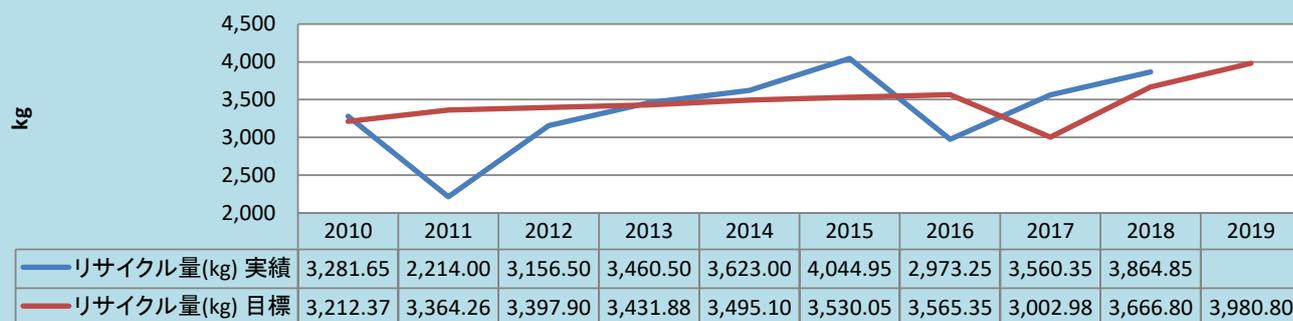
- ・ 新聞紙・段ボール・コピー用紙などの紙類については、分別して廃棄物を削減している。
- ・ 2013年度は本部+東日本物流センターの転居に伴い、増加してしまった。（前年比+48.3%）
- ・ 2018年度は大量の廃棄が有り、前年比+22.6%となってしまった。



(b) リサイクルの推進：目標比+5.4%、前年比+8.6%

- ・ 新聞紙、段ボール、コピー用紙などの紙類については、ある程度の量がたまったら業者に取りに来てもらう。
- ・ 機密書類については、業者にお金を払って裁断してリサイクルしている。
- ・ 在庫としていたが一定期間経過後に処分する鉄製品については、毎年3月末の棚卸前に業者に持ち込んでいる。
- ・ 2011年度の段ボールのリサイクル量は、前年度より30.6%の削減の1362.9kgとなり、リサイクル量の減少分に占める割合が大きくなった。
- ・ それにもかかわらず、2010年度の段ボールのリサイクル量は増加した。（2019.7kg、前年度比+29.7%）
- ・ しかし、2011年度の段ボールのリサイクル量は、前年度より30.6%の削減の1362.9kgとなり、リサイクル量の減少分に占める割合が大きくなった。
- ・ 2013年度は本部+東日本物流センターの転居に伴い、再度増加した。

## リサイクル量



### 4) 省資源（節水を含む）の推進

#### (a) 水資源使用量の削減：目標比+14.4%、前年比+21.0%

(名古屋CCは水道料金が賃貸契約に含まれ使用量測定が出来かねる。各年の集計に含まれていない。)

- ・ ロジスティクスセンターは移転後に使用量が減っている。建物の設備が節水の仕様になっていると思われる。
- ・ 2015年度を底にして、使用量が増加してきた。

## 水道使用量



### 5) 有害化学物質の管理

#### (a) グリーン調達について

当社規格品（総合カタログ掲載品）は全点RoHS指令などに対応している。

RoHS 10物質は原則として含有せず、含有の場合でもRoHS指令の適用除外規定に該当することを確認している。

各協力工場からSDS（安全データシート）及びミルシート（材料証明書）を取得して、当社が購入・販売を行う全ての製品の全工程に関わる含有規制有害化学物質の管理を行っている。

他に協力工場からの製品仕入れ、各CC間の運送品の一部、赤帽での社外への納品の際は可能な限り通い箱を使用している。また、古紙混入率の高いコピー紙を購入している。

#### (b) 有害化学物質について

当社では有害化学物質の取り扱いはございませんが、各協力工場に問い合わせをして使用禁止・使用制限物質のチェック及び見直しを書面で確認している。

また、顧客からの有害化学物質調査依頼に対して、調査・回答を行っており、必要に応じてSDS（安全データシート）及びミルシート（材料証明書）などを提出している。

#### 6) 総括（経営者）

温室効果ガス排出量削減のため電気使用量の削減を重点項目として取り組んできた結果、排出量が前年比で-3.9%と削減出来、目標を達成した。電気使用量も前年比-0.1%と削減出来ている。

一方、廃棄物の増加が顕著である。売上増加によるところもあるが、保管期限を向かえた帳票類の廃棄が大きく占める。保管方法の見直しは進んでいるが、継続して改善していく。

## 6. 環境関連法規への違反、訴訟の有無等

環境関連法規への遵守状況は、「主な環境関連法規一覧」にて管理し、毎月開催されるコンプライアンス会議にてチェックを行っています。これまで創業以来過去33年間、環境関連法規への違反あるいは訴訟等は有りません。また、関係当局より違反等の指摘は有りません。

2018年度は、外部からの苦情などは有りませんでした。

当社はオフィス機能が中心で、火災や地震以外の緊急事態が想定されません。

「問題点の是正・予防処置の結果」については、2018年度は問題点が発生しませんでした。

## 7. 環境活動レポートの次回発行時期

次回の環境活動レポート発行予定は2020年5月です。